

27. 骨シンチグラムが経過観察上、有用と思われる 原発性副甲状腺機能亢進症の1例

武藤 英二 高杉 佑一

並木 正義

(旭川医大・3内)

三橋 英夫 小川 善輝

西部 茂美

(同・放)

平山 隆三

(同・整外)

患者は24歳女性。昭和51年3月健診で血清 Al-P 高値発見。血清 Ca 11.6 mg/dl, P 2.0 mg/dl で副甲状腺機能亢進症を疑うも、妊娠中であり無症状のため経過観察。11月より右肩関節部の疼痛、運動制限出現。52年2月男子を正常分娩。5月当科入院。血清 Ca, PALP, 骨 X 線写真, 骨生検などより、原発性副甲状腺機能亢進症と診断。手術にて甲状腺左葉実質内にある腫瘤摘出。副甲状腺腺腫と組織診断。術後右肩関節部疼痛、運動制限が急速に改善。^{99m}Tc-リン酸化合物を用いての骨シンチグラムでは、X 線所見ではっきりしない左第5肋骨病変部が陽性像としてとらえられ、頭蓋骨 X 線でみられた脱灰像は、とりこみをみる骨シンチの方が術後の改善傾向顕著で RI 集積の減少がみられた。右上腕骨骨頭部の囊腫様変化は、骨シンチでは、RI 集積の低下した部分がみられ、術後とりこみが増加し、骨再生をあらわす一種の改善傾向と思われた。

28. ^{99m}Tc-MDP (Methylene Diphosphonic acid) の基礎的検討

佐藤 賢一 前田 淳一

(旭川厚生病院・放)

佐野 博昭 坂本 治

(同・内)

^{99m}Tc 標識骨スキャンMDP (科研社) を使用する機会を得たので、基礎的検討を中心に報告する。
1) ペーパークロマトグラフィー法で、標識率およ

び安定性を検討した。2) 症例は整形外科入院中の7名で、^{99m}Tc-MDP 10~12 m Ci 静注後、血中消失率・尿中排泄率を測定した。3) 骨集積検討のため体外計測により、第IV腰椎に対する心・肝・腎臓器比を求めた。4) 経時的に6時間までシンチグラムを得た。

結果：標識率は調製後5時間でも97%以上と優れ、その安定性も高い。血中消失率は、1時間7%、2時間4.5%、6時間1.75%、尿中排泄率は、1時間24.5%、3時間55%で、Clearanceの速さを示した。L4対心・肝比は、2時間で2.5以上、L4対腎比はこれに劣るが、3時間でいずれも略々プラトーに達する。経時的骨シンチグラムおよび上記結果より、Waiting timeは2時間で可となるが、3時間で像はより鮮明となる。以上より^{99m}Tc-MDPは、優れた骨スキャン剤と考える。

29. 小腸重複症の1例

大久保 整 久保田昌宏

湯川 元資 高橋貞一郎

(札幌医大・放)

中村富久美 大柳 和彦

(同・小)

戸塚 守夫 上村 恭一

江端 俊彰 戸田 和則

(同・1外)

成松 英明

(同・中検病理)

回腸末端の ectopic gastric mucosa を^{99m}Tc pertechnetate にて診断し、手術により Duplication であることを知った14歳、女子の症例を報告する。検査方法は、前処置なし、RI投与量1mCi scan timeは15分、30分、40分、70分で30分のAnterior view scintigraphyが診断に最も有用であった。